

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第2回環境・経済部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第2回環境・経済部会）
2 日 時	令和6年11月15日 午後2時00分から午後4時50分まで
3 会 場	市役所南庁舎 5階 503会議室
4 出席者	唐澤信広副部会長、西藤直義委員、宮嶋絵美子委員、水寄歩実委員、宮崎涼委員、原有紀委員
5 市側出席者	田中環境部長、北沢産業振興部長、佐藤都市建設部長、宮島上下水道局長、山田危機管理防災課長、西澤環境政策課長、山浦資源循環型施設建設関連事業課長、春原廃棄物対策課長、佐藤ごみ減量企画室長、翠川商工課長、石山地域雇用推進課長、宮崎農業政策課長、市川森林整備課長、滝澤農地整備課長、竹下丸子地域農地整備事務所長、田中真田地域農地整備事務所長、岩下武石地域農地整備事務所長、宮沢観光シティプロモーション課長、竹内管理課長、皆瀬土木課長、細谷都市計画課長、横沢交通政策課長、三井建築指導課長、木内住宅政策課長、茅野丸子産業観光課長、緑川経営管理課長、若林サービス課長、矢澤上水道課長、井出下水道課長、山越浄水管理センター所長、矢ヶ崎丸子・武石上下水道課長、小泉農業委員会事務局長、松木消防総務課長、清水市民参加・協働推進課課長補佐兼交通安全・防犯担当係長（堀内市民参加・協働推進課課長代理）、堀内上下水道基盤強化対策室室長補佐兼計画調整担当係長（関上下水道基盤強化対策室長代理）、清水課長補佐兼観光政策担当係長、下林経営管理課課長補佐兼庶務係長、渡邊環境政策課ゼロカーボンシティ推進担当係長、清水商工課商工振興担当係長、松澤政策企画課政策企画担当係長、東城政策企画課主査
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	なし 記者 なし
8 会議概要作成年月日	令和6年12月12日

協 議 事 項 等
1 開会（西澤環境政策課長）
2 部会長あいさつ（唐澤副部会長（代理））
3 議事 (1) 委員意見（第1回部会等）への対応状況について (2) 第三次総合計画前期まちづくり計画案について (事務局) 第二次上田市総合計画（後期）施策検証シート第3編に関して「第1回環境・経済部会後に委員からいただいた意見・提案」の概要および市の考え方について説明 第三次上田市総合計画前期まちづくり計画案について「第三次まちづくり計画策定シート第3編」に基づき説明 第二次上田市総合計画（後期）施策検証シート第2編に関して「第1回環境・経済部会後に委員からいただいた意見・提案」の概要および市の考え方について説明 第三次上田市総合計画前期まちづくり計画案について「第三次まちづくり計画策定シート第2編」に基づき説明 ～事務局による説明終了後、協議～ (委 員) 本日配られた資料は、実際の計画ではどの部分に落とし込まれるか初めて見た人には分かりづらいため、その辺りを簡単にご説明願いたい。 (事務局) 本日配布した「まちづくりシート」のうち「節の説明文」、「現状と課題」、「達成度を測

る指標・目標値」、「各主体により期待される主な役割分担」については、新しい計画でも同様に掲載される。大きな違いは2表に関してとなるが、2表のグレーになっている部分のように、これまではかなり具体的な取組内容が掲載されていたが、次期まちづくり計画では、具体的な取組を含めた方向性として留めた位置づけになり、基本施策の隣にある黄色い部分「施策の方向性」という内容が記載される。これまでの総合計画のように一つ一つの施策について細かく記載せず方向性を示していくということを念頭に置いていただければと思う。例えば、本日の全体会資料5の8ページの施策の方向性・展開に落とし込んでいくような形となる。

(委 員) 以前は詳細が書かれており読み取れた部分が、施策の方向性の中から内容を推測するような形となり、市民は詳細を見られなくなるということか。

(事務局) あくまで本計画は市の「総合計画」になるため、市の様々な施策はこの下の「個別計画」として、〇〇計画とか〇〇ビジョンという形で作られおり、詳細はそちらに落とし込んである。総合計画の改定に合わせ、個別計画も順次改訂や変更等加わり、細かい取組が記載されるとご理解いただきたい。

(委 員) 委員側は、2表の枝番の内容が新設された方向性に組み込まれているかという視点で協議すればよろしいか。

(事務局) そのようにご理解いただきたい。また、これからの時代の変化、今後10年を見据える中で上田市に必要なものなど、取り入れるべきものなどを議論していただきたい。

(委 員) 3編の28ページの3-2-2の基本施策2では「交通インフラや自然災害が少ない」という表記があるが、個人的な認識において、今までは少なかったがこれから大きい災害が無いとは限らず、2編でも災害についてたびたび触れられていることから、表現はこれでよろしいか。

(事務局) ご指摘のとおり、これまでは、という意味合いも必要になるかと思われるため、表現の修正について検討したい。加えて、交通インフラについても少ないということではないため、表現を改める等、必要に応じて説明文を付け加えるようにしたい。

(委 員) 3-1-1の3ページで「学校給食に地元産農産物の使用量の拡大を図る」とあり、個々の取組をみれば良いかと思うが、計画ということで、なるべくその通りになるようにという観点から現状をお伝えすると、給食費はこの30年ほど、1食310円であるとか、高学年でも370円となっており、野菜が不足した場合や野菜が高騰した場合などに、とても対応できないため納品してもらえないか、と頼まれて納品している状態である。地元食材の消費拡大のためにという理由ではない。お金が足りないが、何とか子どもたちに美味しいものを食べさせてあげたいから協力してくれないかと頼まれ、B品のようなものでも刻めば問題ないからと、納品しているような状況である。また納品方法についても、生産している農家が直接学校までもっていくか、給食の先生が出勤時に少し遠回りして農家を立ち寄って持っていくという、涙ぐましい努力があったうえで、地元農産物を使用しているという状況である。素晴らしい計画ではあるが、どういう理由で地元食材の消費が進んでいないかということをしかりと認識し、給食費（各家庭の負担）が増していないからということを理解していただけると計画が推進されるように思われる。計算したところ、1日50円上がればかなり良い食材が使えるようである。給食費が上がっていることも各家庭ご認識いただけていると思えるため、各家庭で月々千円をご負担いただければ、解決に向かうように思われる。実際現場はそういう状況であるということを理解していただければ、実のある計画になると感じられる。

(事務局) 貴重な経験やご提言に感謝する。ご指摘のとおり、地元食材がなかなか給食に供給されない理由として、現在は流通の原理や市場原理などのもと食材が給食に供給されていることが挙げられる。例えば、生産者から納品するためには、流通の手間賃が上乗せされるため、今はボランティアでできている部分があるが、今後仕組みとしていくためには、長期的には経費として挙げていく必要がある。ご提案のとおり、色々な手段で検討していかな

ければならないということで、これまでも課題だったが、今後とも仕組みとしていけるよう配慮していく。

(委 員) 3-1-2の10ページ下の①に「農山漁村発イノベーションを推進します」とあるが、具体的なイメージをご説明いただきたい。

(事務局) 農山漁村発イノベーションについては、第1回にご質問いただいた内容の資料の項目1にあるとおり、これまでは6次産業化という方針のもと、農産物を売るだけでは所得が上がらなかった状況から「生産者自らが加工し販売すれば付加価値がついて所得があがる」という状況を目指していたが、ご指摘のとおりあまり推進されずにいた。理由としては、生産者が加工施設を整備し、販売先を見つけ、PRしなければならず、実際に割く手間暇が無かったことが挙げられる。国では、これまでの1×2×3ではなく、地域にある自然や歴史を背景として、あらゆる事業者を含めて生産から、様々な要素を結合させて商品化することも付加価値を高めていくことになるとし、そうした取組にも国の補助金を充当するという方針になった。これまでの6次産業化のように、農業者だけの取組ではなく、関わる事業者・企業・生産団体なども、補助金を使うことで、所得を上げて関わりを深めていくことを目指すものとなる。補助金の説明としては、1×2×3に関わる事業のみ対象だったものが、これからは、生産者以外でも、例えば加工業者が特有の自然を背景とした事業として店舗を開業した場合でも、補助対象になるという補助金になる。

(委 員) この(イノベーションなどの)文言が補助金の名前に入っているということか。

(事務局) ご認識のとおりである。これまでは国の補助対象の条件に合わせ、6次産業化の戦略を立てていたが、現在は6次産業化から発展させ、イノベーションの戦略を立てているところである。パブリックコメントも控えており、1月中には策定完了という想定である。

(委 員) 新しい単語であるため、パブコメする場合は追加で説明が必要かと思われる。

(事務局) 説明を加えるようにしたい。

(委 員) 3-2-4、35ページの中段の一番右に記載のある、奨学金返還支援企業への補助金の対象となる条件について、正規職員限定だったかと認識しているが、実際に奨学金で困っている方は正規で働いていない方だと感じられる。この辺りのニーズをマッチしていけるよう、検討していただきたい。

(事務局) 現在は正規職員を対象に実施しているが、ご指摘のとおり返済に苦慮されている方が正規職員以外でも多くいると想定されるため、予算の兼ね合いもありすべてをカバーすることは難しいが、様々な視点で検討したい。

(委 員) 3-2-2、27ページ④「生産性向上や人材不足に対応するため、企業のDX・GX推進に対する支援を行います」とあるが、これは金銭的な支援ということか。

(委 員) 具体的な支援策としては、まず補助金の制度がある。他には民間事業者を中心に研究会を設けていただいており、代表的なものでは、脱炭素の研究会がある。今年度においても脱炭素への取組が重要になっているため、新たに研究会を設けるなどしており、直接的には補助金の制度があり、間接的には講座などを設け、地域の企業を結び付け、連携していただけるような支援策を考えている。

(委 員) 説明を聞くとわかるが、方向性の部分を読んだだけでは、お金がもらえる(補助金制度)のかなと思うのでは。もう少し厚く表現していただきたい。

(事務局) 表現の方法については、ご指摘のとおり、より分かりやすく工夫したい。

(委 員) 観光について、45ページで「上田ならではのモノ・コトを活かした誘客」とあるが、上田の飲み屋街とされる袋町では、地元の食材やお酒をだすお店があるため、その辺りも盛り込んでいただきたと思う。また「外国人を含めたターゲット」という部分について、松本市の店舗スタッフさんがかなり英語を話せており、そういった店舗側の英語能力活性化のための講習会のようなものを盛り込んだ事業があっても良いかと感じられた。

(事務局) 上田ならではのモノ・コトを活かした誘客という点について、袋町では現状客足も遠のいている課題もある中、詳細はお伝えできないが観光協会と仕掛けをしているところである。上田ならではのスナックや、前計画では食という単語で表現していたが、ワインや酒、

追いだれ焼き鳥なども含んで、上田ならではのモノ・コトを包括的にとらえている。加えて上田ならではの自然と都市の融和として、山や川と都市の近さや、ワインツーリズムなども上田ならではの認識しており、そういった視点は盛り込むようにしていく。またインバウンドの件は、実際のところ狙った効果は得られていない。松本・長野・軽井沢などと比べると足を運ばれていない。これまでは上田に足を運んでもらうという方向性だったが、軽井沢や善光寺のある長野、松本城のある松本などと競合する状況でなかなか難しい部分もある中で「軽井沢や松本の次はどこへいくか」という視点で、次の目的地に上田を選んでもらえる施策を打ち出し、次期計画に盛り込んでいきたいと考えている。しなの鉄道の沿線でもあり、実際に外国人の方にヒアリングしたところ「軽井沢の次に金沢へ行く予定だったが、間に3日予定が空いて、ふらっと上田へ来た」という意見もあった。このあたりは基本施策の4の①などが該当するが、多様なターゲットに合った上田の魅力を見つけて発信していくということで、現計画のように細かな文言では触れていないが、前述のような想いを込めている。

(委 員) 先ほど、どのような文言が計画に掲載されるかお伺いした際、施策の方向性であるとの回答をいただいたが、シティプロモーションや全体について、方向性がどの地域にも当てはまりそうな文言になっており、上田らしい施策といえるか疑問である。もう少し文言を足していかなないと、枝番が出ず方向性しか記載されないのであれば、先ほどの委員のご意見のように「モノ・コト」と言われ何を指すかわからないということになってしまう。表現を足す方が良いかと感じられる。

(事務局) ご指摘の点については、施策の方向性について簡潔にということを意識しすぎ、簡潔にし過ぎてしまった反省点である。上田らしい、厚みを持たせた表現になるよう、検討していきたい。

(委 員) 先ほどの委員のご意見に賛成で、観光の頁だけ方向性の内容が薄いように感じられ、上田市民が見ても良くない印象になってしまうのではないかと。もう少し厚みを持たせた方が良いかと思う。

(事務局) 他の部会とのバランスになるが、ご意見を踏まえて作り込んでいきたい。

(委 員) 3-1-2の9ページでは、施策の方向性に「スマート農業の普及や農地の集積等により～」とあり、とても良い方向性だと思うが、コロナ禍で進行が止まってしまっている部分もある。スマート農業はドラマの影響などで多くの方が良い印象を持っている中で、中山間地では非常に導入が難しく障壁が多くあり、スマート農業には時間がかかりそうである。一方で、農地プランについては、コロナ禍前に一度話が進みかけて、コロナで立ち消えになっている状況である。今ならまだ間に合うと感じており、もう少しすると高齢化で担い手がいなくなり始めているので、今着手すれば農地の集約は分かりやすく難しくなくできる。実際に推進するぞということで、是非とも文言に入れつつ、実施していただきたい。

(事務局) スマート農業については、自動運転はじめ、上田地域では栽培の自動化やウェアラブルデバイスの活用、きゅうりの自動選果にも着手しており、今後も重要性が増してくると考えている。また農地の集約については、各地の計画を作っており、ご指摘のとおり今だったらできると聞いているため、積極的に取り組んでいきたい。

(委 員) 資料全体について、方向性の右側のグレー網掛けの部分の、新規・追加の施策の方向性の部分に斜線が引いてあるものは、これから具体的な施策が組まれていくという認識でよろしいか。

(事務局) 3-2-3の33ページの中央にある、新規追加した方向性の部分などを指しているということではよろしいか。こちらは新規追加であり、これまでの計画に記載されていなかった内容が新たに追加されたものである。また統合・改編という部分では、販路開拓やプロモーション、ブランディングなど、新たに取り組んでいる部分があるため、こちらを③とし、上段を②としたい。

(司 会) 他に第3編についてご質問ある場合は、意見シートで個別にお願いしたい。

～途中休憩～

- (委 員) 2-2-5の38ページ②の方向性「給水区画の見直し、各給水域から～」について、右側が斜線だったので質問である。一部地域では簡易水道を使用しており、間もなくその簡易水道が廃止になるということも聞いている。その場合は、自営工事で(水道を)引き込むこととなり、当該地域の物件の売買に支障が出るように思われる。今年度中に方向性は決まると聞いているが、このままだと売買に困難のある物件が残り続け、まちづくりとしてもよくない状態であるため、その辺りの動きがどうなるかお聞きしたい。
- (事務局) 現在、当該簡易水道の関係は市水に統合するかどうか協議している最中である。先日役員会があり、12月に入ってから、組合員を集めて市水に統合するかどうか、最終的な判断をする予定とお聞きしている。先ほどのご指摘のような、廃止されれば(水道が)なくなってしまうということではなく、簡易水道に加入していれば、地権者が市水から引き込みをするような形で話が進んでいる。簡易水道がなくなれば水が飲めないということではなく、市水から引き直す形で、費用は各自負担でやっていただくことになるかもしれないが、その辺りについても、簡易水道側がどのような形で進めていくかを見つつ検討中である。
- (委 員) 費用負担の部分も気になるところであるため、具体的にになってきたらまたご教示いただきたい。
- (委 員) 2-1-2の9ページの主な事業【新設】の中で、「有機物リサイクル施設整備関連事業」とあるが、これは次の10年間で完了するということか。先日も有機物リサイクル関連の良し悪しについて議論する若手会議があったと聞いており、本件に関連しては賛否ありまだまだ市民の中で議論すべき議題であるように思うため、お聞きしたい。
- (事務局) 今までの施設計画についても、「生ごみリサイクル推進プラン」というものを立てた上で計画し、市民説明会を開催してきた。理念としては、焼却するのではなく、リサイクルできるものはリサイクルしていこうということで、将来に渡って必要なことであると認識している。ただ施設については、もう少ししっかりとした市民への周知と理解、そして整備計画が必要であろうと認識しており、現時点ですぐに施設を作ろうというのではなく、生ごみのリサイクルは必要な観点であるため、現在も関連事業ということで、どういう形か確定していないが、検討している段階である。
- (委 員) 市民感情が大きいこともあり、計画なので未確定ということであれば、関連事業であるとか、もう少しソフトな表現でも良いのでは。
- (委 員) 42ページの2-2-6の「犯罪や交通事故のないまちづくり～」の中段に、特殊詐欺などについて「広く周知するとともに～」とあるが、周知の対象は、おそらく高齢者の方を中心に被害にあわないようにという、防犯の観点で書いてあると思われる。近年の闇バイト関連で、実行犯が若者になっていることもあるため、防犯面に加えて、上田から出ている若者が実行犯にならないように、若者向けの啓発事業も併せて必要だと思われるが、その辺りの検討状況をお聞きしたい。
- (事務局) ご指摘のとおり、特殊詐欺の被害者は高齢者が多く、そこにインターネットを通じて若者が気づかないうちに巻き込まれ、闇バイトという社会問題が浮上している。今後は高齢者向けの特殊詐欺の被害防止だけでなく、若者に向けた、闇バイト等に巻き込まれないようにというリーフレット配布、学校関係者への周知も含めて行っていきたいと考えている。
- (委 員) 18ページの2-1-2①「サンマル構想」の達成度についてご教示願いたい。
- (事務局) 本構想は「市内のどこからでも概ね30分以内に市街地へ」というもので、環状道路やそれを補完する道路に対して、それぞれ計画を立てて進めている。代表的なもので18号バイパスの2期工事があり、進捗状況何%という数字は持っていないものの、着実に推進し、総合計画の中でも一番目の目標ということで定め、進捗を速めていきたいというものである。
- (委 員) 次の10年で出来上がる予定ということでしょうか。

(事務局) 次の10年では難しいと考えている。

(委員) 2-2-7の45~46ページ「消防団員の確保」について、施策の必要性「なり手が減少する中で、現役消防団員が活動を継続していくためには、団員に留まらず、その家族を含め応援していく必要がある」とあるが、本当にその通りだと感じている。私の周りも意識高く勤めているが、家族に理解を得られず「また消防か」と言われるのが苦痛という声を聞いている。消防団員のカードを提示すると割引があるとか、家族に良いことがある、子どもが喜ぶなど、そういうことがあれば胸を張って活動ができる。家族の理解を得られながら活動できるような状況を作れば、消防団員の確保ができるのでは。台風19号災害のあと、災害を目の当たりにして消防に参加していない自分が恥ずかしいと地元の若手が自ら消防に入るなど、28~29歳でそういう志を持った方もいるため、計画にあるように、支援策を強力に打ち出してもらえれば団員は増えると感じている。

(事務局) 団員確保にあたっては苦慮しているところであるが、現在も家族への恩恵として消防団員応援事業に取り組んでおり、継続してやっていきたい。また団員の負担軽減について、最も負担となっているのはポンプ操法大会であると認識している。以前は練習期間を2~3カ月とる団もあったが、今年度はおおむね1カ月程度かそれ未満で大会を迎える日程を組むことで、週末に拘束する時間を減らす取組を行った。引き続き同様の取組を行っていきたいと考えている。

(委員) 操法大会について、働き方改革と同じで、中には働きたい者もいるように、消防で楽しそうにやっている方もおり、操法大会を通して実際の火災現場で体が勝手に動くといった良い点もある。事務局の説明のとおりかなり負担ではあるので、まずは負担軽減の方向にシフトし、その代わりやりたい人はしっかりやれるという環境も作っていただきたい。

(事務局) ポンプ操法大会については両極端な状況になっている。若者は嫌がるが、35歳くらいを過ぎると家庭ができたり地域に入っていく機会が多くなったり、重要性を認識して取り組んでいただけ。若手と班長以上での意識の違いも課題となっているので、検討していきたい。

(委員) 2-1-2の6ページ②「焼却で発生したエネルギーの循環利用や災害時の廃棄物処理への対応～」とあるが、災害時の廃棄物処理が隣の枝番に記載ないが、こちらは新規に盛り込まれたものと認識してよろしいか。

(事務局) こちらについては、資源循環型施設における臨時の対応ということで、災害廃棄物の処理に対応することが上田地域広域連合のごみ処理計画に従前から位置付けられており、そうした事業の関連ということで文言があるとご理解いただきたい。

(委員) 災害時の廃棄物の処理は「焼却」ということでよろしいか。

(事務局) 災害時に発生した可燃ごみの焼却である。

(委員) この文言ではなんでも処理するというイメージになるが、詳しく記載することは可能か。

(事務局) 詳細とすれば災害時に発生した資源ごみ、燃えないごみ、可燃ごみと分別を行い、それぞれの対応をすることになるが、内容については検討したい。

(委員) 27ページ、2-2-3③「将来にわたり持続可能で安全・安心な道路環境を確保するため、道路・橋梁などのインフラ長寿命化を推進します。」とあり、インフラ整備は継続されていくかと思われるが、最近では急に道路工事の予告があつたり、看板が立っていたりするように思われ、看板が見づらかったり、工事期間が書いてあるのに始まっていなかったりし、交通の妨げになっているように思われる。表記方法が統一されるなどして看板を分かり易くするほか、どこで道路工事が行われているか、どこが通行止めかなどを市で把握し、目で見えるような対策は考えているか。

(事務局) 工事の際の看板や周知の分かり易さという観点でよろしいか。

(委員) ご認識のとおりである。加えて、どこで工事が行われているか、市民全体が分かるようなものがあれば。

(事務局) 行政が発注する工事で規模の大きいものは、HPや広報で周知しているが、それ以外の小規模なものについては、一般的には地域の皆様に回覧や配布物で周知している。また看板

についてもできるだけ分かり易く、遠くからでも判別できるような表示方法や設置場所を心掛けている。工事に着手する前に交通計画を立て、打合せをした上で実施しているので、また徹底していく。市や県で発注するもの以外に、個人宅の水道やガスの取り出し工事などで規制や通行止めがある場合は、看板の設置が不十分であるということも考えられる。工事の申請は受け付けて適正に審査しているため、引き続き徹底していく。

(委 員) 駐車場について、例えば普通車ではなく大型バイク等の駐車場で、上田駅周辺は125ccまでの駐車場は完備されているが、それ以上のバイクの駐車場がないため、その辺りの整備も盛り込んでいただきたい。また犯罪に関して、未だに暴走族が夜に見受けられる。少年というよりも中年というイメージであるが、犯罪や非行の防止についても文言として取り扱っていただきたと思う。

(事務局) (駐車場に関して) 上田駅周辺の駐車場で、125cc以上のバイクについては、普通車のエリアに停めていただくのが現状となっているが、今後の検討課題とさせていただきます。

(事務局) (犯罪に関して) 暴走族に関して、上田警察署から聞く限りでは、現在「共同危険行為」ということで捜査を進めており、少年も絡む事件ということで公にできない部分もあるが、捜査は進めていると聞いている。

(委 員) 全体を通して、今回記載されるのは施策の方向性のみで、枝番の内容までは記載されないと理解しているが、そうなると細かい施策が分からず、方向性だけで理解できる部署もあれば、枝番を読んでみないと分からない部署もある。その辺りのバランスなどを今後考えていただきたい。例として、方向性だけにするのであれば、方向性を厚く書いたり、方向性を薄くするのであれば枝番を記載して読めるようにしたりすることは可能か。

(委 員) QRコードを読み込むと施策が細かく読み込めるなどの方法があってもよいのでは。

(委 員) 総合戦略も兼ねているので、包括的な方向性としてほしいということはお聞きしているが、その辺りを次回までに市で検討していただきたいというのが委員全体の認識である。

(事務局) 本部門に限らず、他の部門でも同様のご指摘があるかと思われる。部門ごとにボリュームの大小はあるかと思うが、全体のバランスなど見ながら、個別計画に結び付く方法などを検討していきたい。

(司 会) 司会をやっているけど、方向性だけでは分からないという印象を抱いた。方向性で何となくのイメージがつくとは思いますが、総合計画策定に向けた最初の段階で、「市民に分かり易く」という視点もあったかと思うので、個々の政策やプランなどと結びついていることが分かるような方法がとれるのであれば、より良いかと感じられる。

(司 会) 他に個別で意見等があれば、メールで事務局まで。

(3) その他

4 事務連絡

次回部会開催日程について事務局から伝達

5 閉会 (北沢産業振興部長)